

国立大学法人旭川医科大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

旭川医科大学は、医療の質の向上、地域医療への貢献を推進するため、高い生命倫理観を持ち高度な実践的能力を有する医療職者を育成するとともに、生命科学に関する先端的な研究を推進し、高度な研究能力を持つ研究者を育成することを目指している。第2期中期目標期間においては、大学と地域社会や国際社会との連携を図り、社会に開かれた大学を目指すこと等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、橋渡し研究加速ネットワークプログラム事業の北海道拠点として、3大学（北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学）で構成する北海道臨床開発機構と教育研究推進センターとが連携し、重点シーズを支援する体制の強化を図っているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（機能強化に向けた取組状況）

国際基準に基づく医学教育分野別評価を目指した医学科カリキュラム改革を進めるため、診療参加型臨床実習の充実、国際基準の教育認証対応、アウトカム基盤型教育の明確化を目的とした「医学科 2015 カリキュラム検討WG」を設置し検討を開始したほか、地域連携により「地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医師及び看護師の養成」を行うため、富良野市や旭川市と連携協定を締結している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 復職・子育て・介護支援センター（略称：二輪草センター）において、「イブニングセミナー」及び「二輪草セミナー」を開催するなど、復職・子育て・介護に関する就労支援を行った結果、看護職の離職率が、事業開始前の11.0%（平成18年度）から、7.8%（平成25年度）に低下するなどの効果が出ている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成24年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成25年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 学生の学習状況や学習意識を把握し、教育改革や修学指導のための基礎資料とするため、医学科及び看護学科の第1学年から第4学年学生を対象とした学習実態調査を実施し、その結果を教員に周知するとともに、調査結果を踏まえ、シラバスにおける予習・復習に関する指示事項記述の充実を教員に呼びかけるなど、自学自習の習慣形成による知識の習得に向けた学生の準備学習等のさらなる活性化を図っている。
- 双方向遠隔授業システムを利用した教養教育の充実強化のため、北海道地区7国立大学間で単位互換協定を締結し、平成26年度からの単位互換授業実施に向けて体制を整備するとともに、遠隔授業システム機器の設置を完了している。
- 学内公募により独創性のある生命科学の研究、地域特異的疾患に関する研究を支援するため、学長裁量経費により、①学際的連携、融合によって形成される研究領域に

おける、基礎・臨床の垣根を越えた学内研究ネットワークによるプロジェクト研究（1件）②橋渡し研究（Translational Research）推進のために、3年以内に非臨床でのPOC（proof of concept）取得及び治験届等の提出を目指す研究課題（3件）③個別研究として、「ミクログリアの活性化を調節する内在性制御因子の同定」研究外30件を選定している。

- 橋渡し研究加速ネットワークプログラム事業の北海道拠点として、3大学（北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学）で構成する北海道臨床開発機構と教育研究推進センターとが連携し、重点シーズを支援する体制の強化を図ったことにより、平成24年度に4件であった研究支援件数は、平成25年度は8件とその支援をさらに拡大している。
- 学術成果リポジトリの論文登録数増加を図るため「図書館サイエンスカフェ」を開催し、教員・学生に対して学術成果リポジトリとオープンアクセスに関する広報を行い、新たに583件の論文を公開している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 平成25年12月20日から10日間、ベトナムベンチェ省での口唇口蓋裂手術の医療援助に、歯科口腔外科医、麻酔科医及び手術部看護師各1名と学生ボランティア2名が参加しており、同医療援助は、平成19年以降継続して行っていたところ、ベトナム政府から日越国交樹立40周年（2013年）に際し、長年参加してきた教授等に対し、顕彰が行われている。
- 厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに対応した研修を企画し、職場適応サポートやメンタルサポートの実施、研修責任者・教育担当者・実地指導者の役割の明確化、到達目標の設定及びその評価を行っている。
なお、新人看護職員研修については、他病院からの受入れも行っており、平成25年度は5医療機関より延べ57名が受講している。

（診療面）

- 医療安全管理部に看護師長を配置するとともに、専任リスクマネジャーを3名に増員して、体制の強化を図った。また、職員の医療安全に対する意識向上のため、特別講演会を開催（参加者：128名）するとともに、各部署に医療安全管理部員が院内安全巡回を実施したほか、各部署における安全への取組報告会を2日間の日程で開催している（参加者：延べ732名、発表部門：22ナースステーション、23診療科、9部門・センター）。
- 急性大動脈解離、大動脈瘤破裂など急性大動脈症候群といわれる疾患群の患者を、遠隔地から救急搬送する場合における手術の有無や術式を迅速に決定するため、CT画像読影システムを利用した緊急時の転送システムを構築している。

（運営面）

- 「平成25年度目標請求額ヒアリング調査」に基づき、診療科ごとに目標を設定し、当該目標達成に向け協力要請を行った結果、平成25年度の請求額は、目標請求額（180

億 9,700 万円) 及び平成 24 年度の実績 (181 億 1,100 万円) を大幅に上回る 184 億 8,200 万円となっている。

- 効果的な診療経費削減を行うため、現状の把握、分析を行うとともに、職員の意識づけのため外部講師による「ローコストオペレーション (極力ムダを省いた業務活動)」について講演等を行ったほか、「院内医療材料統一 WG」を立ち上げ、医療材料の統一化を図るとともに、後発医薬品 (ジェネリック医薬品) への切替等、経費削減に向けた取組を行い、医療材料において約 1,400 万円、医薬品において約 2,300 万円の支出費用を削減している。